

厚生労働行政推進調査事業費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)
患者のケア移行に伴う薬剤師間の情報連携の
現状課題の把握とその解決に向けた調査研究 (24IA002)
分担研究報告書

「急性期における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携の現状調査」

研究分担者 松尾裕彰 広島大学病院・教授

研究協力者 國津侑貴 京都大学医学部附属病院薬剤部・特定助教

研究要旨

医療の高度化・細分化および療養スタイルの変化により、治療・療養の場の移行(ケア移行)は多様化し、安全かつシームレスな治療を患者に提供するためには、医療従事者間の適切な情報共有が重要である。特に薬剤に関する情報不足が、薬物治療の質や安全性の低下を招く。医師の診療情報提供書や看護師の看護サマリーの薬剤関連情報は不十分であることから、薬剤師が薬剤管理サマリーやトレーシングレポートを発行し、施設間ケア移行時の薬剤関連情報を補完している。しかし、急性期病院の院内でのケア移行については、ツールや手順書が整備されていない状況にある。本研究では、急性期医療におけるケア移行に焦点をあて、薬剤師による情報共有について現状課題の抽出、論点整理を行った。

自宅・居宅介護施設と急性期病院間、急性期病院内の部署・病棟間、急性期病院と他病院間のケア移行を5つのフェーズに分けて文献調査を行った。その結果、ケア移行時に薬剤管理サマリーやトレーシングレポートなどのツールを利用し、薬剤に関する情報を共有することにより、安全で質の高い薬物治療が行われていることが明らかとなった。一方、急性期病院を軸としたケア移行のフェーズや疾患によって、薬剤師の連携による情報共有の浸透度に大きな差があること、および、必要な情報が異なることや共有が不十分な部分があることが示唆された。特に、緊急入院時や急性期病院内のケア移行については報告が限られていた。今後、急性期病院へのアンケートやインタビュー調査を実施し、各ケア移行時に必要な情報、情報提供手段およびタイミング等を明示することで、より安全でシームレスな薬物療法が実現できると思われる。

研究協力者

齋藤靖弘 札幌徳洲会病院薬剤部・主任
柴田ゆうか 広島大学病院薬剤部・副薬剤

部長

吉川博 広島大学病院薬剤部・薬剤主任

鍛冶園誠	岡山市立市民病院薬剤部・副 薬剤部長
田中雄太	岡山大学病院薬剤部・副薬剤 部長
大川恭昌	岡山大学病院薬剤部・薬剤師
國津侑貴	京都大学医学部附属病院薬 剤部・特定助教
川田将義	京都大学医学部附属病院薬 剤部・薬剤師
豊見敦	日本薬剤師会・常務理事
村杉紀明	日本薬剤師会・理事

A. 研究目的

現代の医療における治療・療養の場の移行は多様化し、患者の連続的な治療と安全を確保するためには、医療従事者間での情報共有が重要となる。特に使用薬剤の管理と情報共有は、患者の安全と治療の質の向上に直結する。医師間・看護師間においては診療情報提供書や看護サマリによる連携が行われているが、使用薬剤についてきめ細やかな情報を共有することは困難なことも多い。一方で薬剤師間でも適切な情報共有は道半ばである。日本病院薬剤師会が公表している「薬剤管理サマリー」（病院・病院間、病院・薬局間）は、このギャップを埋めるための一歩であり、その使用により、退院後のイベント減少や服薬アドヒアランスの悪化防止、薬局薬剤師の服薬指導の質向上に寄与することが報告されている。しかし、外来患者の継続的なフォローに用いられている「トレーシングレポート」（薬局・病院間）の連携に比べて、病院薬剤師間の連携は、マンパワーやモチ

ベーションなどの課題から、十分に普及しておらず効果があるとは言い難い。さらに、急性期病院の中でのケア移行（救急・周術期・ハイケアユニット間等）でも、情報連携の手順書が整備されていない。加えて、タスク・シフト/シェアの観点から、ケア移行時の薬剤師による情報連携が、医師の負担軽減や医療の質の向上にどの程度寄与するのか、医療DXの観点から、今後の連携手法・体制がどのように改善可能なか十分な検証は行われていない。すなわち、**多様化する患者のケア移行時において薬剤師間の情報共有について現状課題の抽出、論点整理が、地域包括ケアシステムの更なる進化のためには必要となる。**

本研究では**急性期におけるケア移行**に焦点をあて、**薬剤師間の情報共有について現状課題の抽出、論点整理**を行った。

B. 研究方法

本研究では急性期医療機関が関与するケア移行として、次の5つのフェーズに分類した。（図1）

- ① 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（予定入院・退院）
- ② 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（緊急入院）
- ③ 急性期病院内（転棟・ICU/手術部への出棟・帰棟）
- ④ 急性期病院⇔他の急性期病院、回復期・慢性期病院（転院・入院）
- ⑤ 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（外来手術・受診・帰宅）

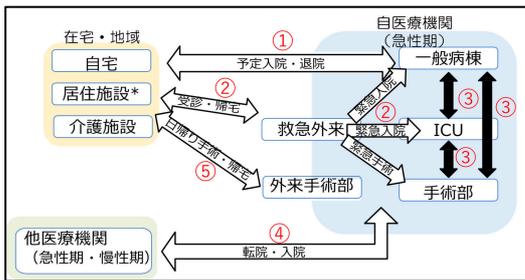


図 1. 急性期医療機関が関与するケア移行

それぞれのフェーズにおける薬剤師間の情報共有に関する既存の研究を体系的に調査し、現時点での報告内容と課題点を収集し、エビデンスの整理と研究の位置づけを行った。

(検索方法)

原則として日本における報告を対象とし、検索するデータベースとして、医中誌を選択した。十分な文献情報が得られなかったフェーズについては、インターネットに公開されている報告書等も対象とした。

検索に使用したキーワードは以下の通りである。

検索キーワード：急性期医療、ケア移行、ケア連携、ケア統合、患者転送、ケアの分断、薬剤師間連携、薬薬連携、情報共有、薬剤管理、実践例、効果評価、Transition of Care、Medication Reconciliation、Care Coordination、Fragmentation of Care

本調査は 2024 年 6 月～7 月に実施した。

(倫理面への配慮)

本研究は「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の対象外である。

C. 結果

参考資料 1 に収集された報告を示す。以下、フェーズごとに結果を示す。

① 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（予定入院・退院）

本フェーズでは 57 報の報告が収集された。予定入院については 43 報、退院については 17 報の報告が収集され、そのうち双方を含む報告が 3 報存在した。

入院時に患者情報を連携する取り組みは、施設単位のみならず、地域単位でも種々実施されていた。各種連携ツールを用いて薬剤情報やアレルギー歴、副作用歴、薬の管理方法を共有することで、お薬手帳などでは入手困難な情報が 14～29%存在したことが報告されていた(参考資料 1・文献 7)。特に手術目的の入院について、術前休止薬に関する情報を薬局と病院で連携している取り組みは多く報告されていた(参考資料 1・文献 1-6, 8)。一方で、退院時と比較すると全体的として報告が少なかった。各施設・地域で連携ツールを作成されており、統一したフォーマットがないことが課題として挙げられた(参考資料 1・文献 35)。

退院時については、薬剤師間で連携を行うことで有害事象を防ぎ、ポリファーマシーの解消や再入院を減らすことも可能となると報告があった(参考資料 1・文献 22)。薬局アンケートから、ツールによらず退院時薬剤情報提供書を活用した情報共有は、薬薬連携に有益であり、「入院時病名」、「入院中に中止した薬剤とその理由」が有用な情報であることが抽出されていた(参考資料 1・文献 33)。また、退院後の心血管系

イベントの発生件数を調査した研究(参考資料1・文献39)では、薬剤管理サマリー使用群のほうが有意に低く、再入院の件数に有意差はなかった。薬剤管理サマリー未使用群の服薬アドヒアランスは有意に低かった。このように薬剤管理サマリーや退院時共同指導など、ツールや制度も整いつつある現状が多数報告されていた。

② 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院(緊急入院)

本フェーズでは16報の報告が収集された。救急外来における患者薬歴把握の実情として、救急外来における薬歴記録において、薬剤師は非薬剤師と比較して有意に迅速かつ正確だった報告が存在した(参考資料1・文献58)。転院搬送時の診療情報提供書が患者の薬歴内容を反映していたのは23%と報告されていた(参考資料1・文献59)ほか、救急外来専従薬剤師によって薬物有害事象(薬剤起因性疾患)の早期診断に至った事例が複数報告されていた(参考資料1・文献60,64,65)。一方で、救急外来における薬剤情報の問題点として、救急入院患者では「お薬手帳」の利用の割合が予約入院患者と比較して有意に低く、救急入院患者で入院当日に持参薬調査が実施できた患者は17.6%、入院翌日の実施が50.6%と報告があり(参考資料1・文献59)、救急外来専従薬剤師による持参薬鑑別が救急医の負担を1日1.9時間軽減していると報告されていた(参考資料1・文献63)。また、お薬手帳や退院時薬剤管理サマリーなどの情報共有ツールが使われているが、情報の時系列表示だけでは不十分と述べられていた(参考資料

1・文献69。

③ 急性期病院内(転棟・ICU/手術部への出棟・帰棟)

本フェーズでは29報の報告が収集されたが、原著はほとんどなく、解説などで記載されている連携ツールと情報を確認した。院内の薬剤師間の連携事例として、病棟薬剤師がアレルギー、PONVリスクや副作用歴を手術室薬剤師と情報共有、手術室薬剤師が強い痛みの訴えや副作用症状を手術室薬剤師に情報提供を行っている報告が存在した(参考資料1・文献75)。この報告では、連携手段としてはHIS(テンプレート含む、掲示板)、口頭、申し送りノートなどが挙げられていた。また、ICUから退出した患者にICU担当薬剤師が介入することで、適切な薬剤管理ができたとの報告も存在した(参考資料1・文献97)。ICUで開始した薬剤が退出後も継続され、副作用が生じた症例報告があり、院内においてもケア移行後の再開・中止薬の情報共有が重要であることが示されていた。一方で、一般病棟から手術室、手術室からICUなど急性期における連携手段について言及された報告はほとんどない状況であった。

④ 急性期病院⇔他の急性期病院、回復期・慢性期病院(転院・入院)

本フェーズでは10報の報告が収集された。学会報告レベルも含めての報告数であり、本フェーズにおける報告はかなり限定されていた。診療情報提供書に記載された薬剤情報は正確でないことが多々あり、施設独自に作成した転院時フォローアップ

依頼書が医師への処方提案につながるなど、診療情報提供書にない情報の補完に有用であった報告がみられた（参考資料1・文献103）。

⑤ 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（外来手術・受診・帰宅）

本フェーズでは47報の報告が収集された。外来受診時の薬局との連携について、トレーシングレポート（TR）とお薬手帳を連携手段として用いる報告が多く、その他、医療情報ネットワークの活用や、地域で開催する研修会等で連携を行っている報告がみられた（参考資料1・文献17）。TRを活用している薬局は15%、過去3か月間にTRを提出したと答えた薬局が約30%との報告があり、その利用は十分には進んでいないとの報告が多い（参考資料1・文献153）。その他、地域の特性に合わせたツールを作成することで、効果的な連携が可能となったとの報告も見られた（参考資料1・文献131）。TRを提出している薬局を対象に行った調査において「医師が読んでいくか分からない・反応がない」と回答した薬局が40%あり、利用効果を実感しにくいと感じている薬剤師が多く、薬剤師が一方的に情報を提供するだけでなく、フィードバックがあるような体制づくりが重要であると報告されていた（参考資料1・文献153）。また、外来で行う日帰り手術については報告がほとんどなく、白内障日帰り手術に関して、医療機関が地域の薬剤師会に対して独自に作成・公開している報告が1報あるのみであった（参考資料1・文献51）。

D. 考察

自宅や介護施設からの予定入院については、特に術前休薬に関する連携や情報共有の取り組みは多くの施設で実施されていたが、各施設・地域で個別の連携ツールが作成されており、統一したフォーマットがないことが課題と考えられる。TRを活用している報告も存在したが、適切な情報連携のためには病院側が薬局に対して「入院」に関する情報を共有するとともに、どのような情報を求めているのかを明らかにする必要がある。さらに、連携タイミングに関しても「入院時（入院直後）」で十分なのか、検討が必要である。

退院時の連携に関する報告は多く、薬剤管理サマリーや退院時共同指導など、ツールや制度も整いつつある現状が多数報告されていた。このような取り組みを全国的に標準化していくことが今後の課題であると考えられる。

緊急入院における情報共有については、これまでの報告では救急外来における薬剤情報連携は、お薬手帳や問い合わせが主な手段であり、把握するために時間を要する、情報が不十分といった問題があった。さらに薬剤師を救急外来へ配置している施設は少なく、報告も限られていた。そのため、救急搬送時に、どのような薬剤情報が連携される必要があるかを明確にすることが今後求められる。ICU、救急外来、手術室、病棟間といった、院内における情報共有については、その重要性は述べられているものの、報告数は少なかった。これは、そもそも一般的な引継ぎ業務として情報の共有を行っているためと考えられたが、実態把握のためにはさらなる調査が必

要である。また、一般病棟から手術室、手術室から ICU など急性期における連携手段については言及がほとんどみられなかった。これらはカルテ記載では間に合わないような症状変動が大きい時期であり、情報の連携として最適なツールや手段の検討が必要である。さらに、医師、看護師の申し送り情報に記載の乏しい薬学的観点からの情報の整理が必要と考えられた。また、手術室担当薬剤師が配置されていない施設においても薬剤に関する情報共有をどのように行うべきか検討する必要があると考えられる。

急性期病院から他の急性期病院や回復期・慢性期病院への転院時については、薬剤情報を共有すること自体やその有用性に関する報告は乏しかった。一部の施設では、転院先にフォローアップしてほしいことを伝える取り組みを行っていたが、それら連携の取り組みがどのような患者アウトカムをもたらすかは不明瞭であった。そのため、転院時薬剤情報提供書をはじめとした転院時の薬剤師連携の有用性を明らかにする必要がある。

外来受診患者の薬物療法に関する情報共有については、TR の活用、IT の利用、統一書式の運用等の報告が多数あり、TR による薬局から病院への情報提供については進んでいることが示された。これは、近年の調剤報酬改定により、かかりつけ薬剤師制度や服薬情報提供料等が浸透し、薬局と病院・診療所の間における連携土台が成熟しつつあるためと考えられる。一方で、自宅・居住施設から日帰り手術を受ける患者に関する情報共有の文献は皆無であり、日帰りであっても手術を受ける患者にお

いて共有すべき情報や共有方法について検討する必要がある。

今回の調査により、ケア移行のフェーズや疾患によって薬剤師間の情報連携の浸透度合いは大きな差があるほか、必要な情報が異なり、不十分な部分があると示唆された。今後、全国規模のアンケート調査やインタビュー調査を実施し、各ケア移行時に必要な情報、情報提供手段およびタイミング、情報共有が必要な患者の優先順位について示すことで、よりシームレスな薬物療法が実現できると思われる。

E. 結論

急性期病院を軸としたケア移行時の薬剤に関する情報共有は薬剤管理サマリーや TR が使用され、安全で質の高い薬物治療が行われていることが明らかとなった。一方で、フェーズや地域によっては、その浸透度合いやツール、共有される情報に差異が見られた。特に、緊急入院時や転院時のフェーズについては報告が限られており、まずはその実態を明らかにする必要がある。

E. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

参考資料 1. 急性期における患者のケア移行時の薬剤師間の情報共有・連携に関連する報告リスト

No	フェーズ番号	雑誌, 巻, ページ, 年 (URL)	文献タイトル
1	①	医療薬学, 50, 56-67, 2024	周術期における薬・薬連携を目的とした連携ツールの構築 三重県松阪地区でのパイロット試験
2	①	薬事, 65, 2578-2582, 2023	【入退院支援を再点検!退院後を見据えた薬学管理】入院時(退院前) 持参薬管理とリスク評価
3	①	日本臨床麻酔学会誌, 42, 555-562, 2022	術前患者に対する内服薬剤管理の病院・保険薬局との連携システムの確立
4	①	医療薬学, 48, 368-378, 2022	三重県における周術期での薬・薬連携の現状に関するアンケート調査
5	①	調剤と情報, 27, 2570- 2574, 2021	【地域連携薬局 スタートアップ】地域医療連携に求められる情報共有 病院薬剤師の立場から
6	①	調剤と情報, 27, 2550- 2554, 2021	【地域連携薬局 スタートアップ】シチュエーション別 地域連携薬局の薬学的管理と情報共有 入院時
7	①	神奈川県病院薬剤師会雑誌, 53, 2-7, 2021	保険薬局との情報連携に基づく持参薬管理体制の再構築とその効果
8	①	医療, 75, 233-237, 2021	地域包括ケアシステムの構築に向けて-病院薬剤師の役割- 患者入院支援・周術期管理チームにおける薬剤師の関わり
9	①	広島県病院薬剤師会雑誌, 55, 131-135, 2020	薬薬連携を担うお薬手帳の利用に影響を及ぼす患者要因の検討
10	①	徳島赤十字病院医学雑誌, 15, 129-133, 2010	お薬手帳・薬剤情報提供書持参の実態調査および服薬状況と理解度についての調査
11	①	日本病院薬剤師会雑誌, 60, 766-770, 2024	入院時施設間情報連絡書の有用性と効果的な運用方法に関する検討
12	①	https://www.jshp.or.jp/activity/guideline/20190610-1.pdf	日本病院薬剤師会, 地域医療連携実例集 (Vol.2), 菊川市立総合病院 かかりつけ手帳を用いた連携患者情報連絡票で情報共有

13	①	https://www.jshp.or.jp/activity/guideline/20180618-1.pdf	日本病院薬剤師会，地域医療連携実例集 (Vol.1)，地方独立行政法人 岐阜県総合医療センター 急性期大規模病院の連携事例 施設間情報連絡書がつなぐ連携
14	①	https://www.mhlw.go.jp/content/12404000/000860750.pdf	かかりつけ薬剤師・薬局の評価を含む調剤報酬改定の影響及び実施状況調査 報告書案
15	①	レギュラトリーサイエンス学会誌，12，3-15，2022	入退院時における地域の薬局薬剤師と病院薬剤師の情報連携の有用性に関する研究
16	①	調剤と情報，27，2556-2563，2021	【地域連携薬局 スタートアップ】シチュエーション別 地域連携薬局の薬学的管理と情報共有 退院時
17	①	広島県病院薬剤師会雑誌，54，159-167，2019	保険薬局を対象とした病院薬剤師との連携に関するアンケート調査
18	①	愛知県病院薬剤師会雑誌，51，3-6，2024	在宅医療における地域連携薬局への期待 「病院薬剤師の視点から地域医療連携薬局に求められること」
19	①	医療薬学，50，75-83，2024	潜在的不適切処方の中止維持における退院時薬剤情報提供の効果
20	①	日本病院薬剤師会雑誌，59，1254-1259，2023	薬剤管理サマリーの有用性と QR コードによる調査表返送率の改善効果
21	①	日本薬剤師会学術大会講演要旨集，56，175，2023	「薬剤師サマリ」を用いた切れ目ない地域連携における評価
22	①	薬局，65，2657-2661，2023	【入退院支援を再点検！退院後を見据えた薬学管理】退院時(退院後) 退院時の薬剤情報共有と薬薬連携のポイント 在宅を行う保険薬局の立場から
23	①	三菱神戸病院誌，12，25-32，2022	薬物治療の継続的管理を目的とした退院時薬剤情報提供書の運用と薬局アンケートによる評価
24	①	日本病院薬剤師会雑誌，59，593-599，2023	過疎高齢化地域の地域包括ケア病棟における薬剤師介入の必要性に関する解析 急性期病棟との比較

25	①	日本病院薬剤師会雑誌, 59, 401-407, 2023	退院支援関連業務への介入とアウトカム評価 日本病院薬剤師会令和3年度学術第2小委員会アンケートから
26	①	医療の質・安全学会誌, 18, 26-33, 2023	病院薬剤部と医療・介護施設との薬剤・患者情報共有化への取り組み 施設間情報提供書の有用性評価
27	①	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 1350-1352, 2022	回復期における病院薬剤師業務～中小病院の実践事例を中心に～退院時の連携－退院時薬剤管理指導と薬剤情報連携－
28	①	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 1348-1349, 2022	回復期における病院薬剤師業務～中小病院の実践事例を中心に～退院時の連携－退院後の服薬管理のために病院薬剤師ができること－持参薬から退院時処方へつなぐ連携
29	①	広島県病院薬剤師会雑誌, 57, 57-64, 2022	広島県下における退院・転院時の情報提供書(薬剤管理サマリー)の活用に関する実施状況の調査
30	①	医療薬学, 48, 129-135, 2022	新型コロナウイルス病棟入院児の臨床的特徴および新型コロナウイルス陽性小児患者への薬剤師の指導介入に関する検討
31	①	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 526-530, 2022	ドブタミン注射薬の持続投与を継続したまま在宅医療へ移行した終末期心不全の1例
32	①	日本職業・災害医学会会誌, 70, 39-48, 2022	保険薬局薬剤師と病院薬剤師との薬薬連携推進に向けた疑義照会および患者情報共有に関する現状調査と課題の検討
33	①	滋賀県病院薬剤師会雑誌, 45, 6-11, 2022	薬剤管理サマリーやお薬手帳を活用した薬薬連携の現状把握
34	①	滋賀県病院薬剤師会雑誌, 45, 5, 2022	かかりつけ薬局の普及状況と薬薬連携の取り組みについて
35	①	日本薬剤師会雑誌, 74, 15-20, 2022	お薬手帳の課題改善に向けた取り組み 退院時情報提供項目統一フォーマットと患者基本情報を保存できるツール「やっさだるマンカード」の評価
36	①	岡山赤十字病院医学雑誌, 32, 50-57, 2021	情報提供書作成ツールの構築とその有用性に関する検討
37	①	在宅薬学, 8, 17-22, 2021	薬局から病院に移って見えてきた薬薬連携の課題と展望

38	①	日本病院薬剤師会雑誌, 57, 1066-1072, 2021	市販の文書作成支援システムを用いたお薬手帳用薬剤管理サマリーの発行と保険薬局からの返書の解析
39	①	医療薬学, 46, 446-451, 2020	薬剤管理サマリーと患者のイベント抑制に関する調査
40	①	日本病院薬剤師会雑誌, 56, 1306-1312, 2020	薬物療法における入院時から在宅までを見据えた患者服薬支援体制の構築
41	①	日本病院薬剤師会雑誌, 56, 767-771, 2020	薬学的介入により減薬できた患者の退院後における処方状況調査
42	①	医療薬学, 46, 279-284, 2020	心不全患者に対する病院の薬剤師と保険薬局の薬剤師による協働介入の効果
43	①	九州薬学会雑誌, 73, 17-22, 2019	宮崎県病院施設における薬薬連携の現状調査
44	①	日本病院薬剤師会雑誌, 55, 637-642, 2019	施設間情報連絡書を利用した病院薬剤師と保険薬局薬剤師の情報共有の有用性評価
45	①	医療薬学, 45, 97-105, 2019	急性期病院における退院時薬剤情報提供書の運用と薬局アンケートによる評価
46	①	薬学雑誌, 138, 787- 789, 2018	薬剤師が取り組む心不全の在宅医療-地域で支える心不全包括ケアの推進- 心不全診療における薬薬連携の重要性-病院薬剤師の立場から-
47	①	日本病院薬剤師会雑誌, 54, 851-856, 2018	病院薬剤師提案型の保険薬局薬剤師による訪問薬剤管理指導導入の有効性
48	①	北海道病院薬剤師会誌, 93, 17-19, 2017	がん患者の在宅療養環境の整備に向けた保険薬局との連携
49	①	海南病院学術雑誌, 4, 29-31, 2018	保険薬局と病院間の薬剤情報共有の試み
50	①	日本プライマリ・ケア連 合学会誌, 41, 18-23, 2018	我が国におけるケア移行という概念 -病院を退院した患者の診療所外来へのケア移行を中心に-
51	①	日本病院薬剤師会雑誌, 53, 998-1002, 2017	白内障手術患者への入院前から退院まで一貫した薬剤管理業務の取り組みとその評価
52	①	日本病院薬剤師会雑誌, 52, 882-886, 2016	IT支援システムの構築による退院時薬剤情報管理指導の効率化
53	①	医療薬学, 42, 122-128, 2016	病院薬剤師が情報通信技術を用いて地域緩和ケアチームを後方支援することで在宅緩和

			和ケアを行った一症例
54	①	九州薬学会会報, 69, 57-62, 2015	病棟専任薬剤師と在宅訪問を行う保険薬剤師による双方向の情報提供における実効性の調査研究
55	①	九州薬学会会報, 68, 59-62, 2014	緩和ケア、在宅医療、後発医薬品使用に関する薬業連携の実態調査
56	①	ファルマシア, 50, 1237-1239, 2014	薬業連携つながる病院・薬局(第8回) 東京 緩和ケアチーム薬剤師が保険薬局へ提供する患者薬剤サマリーの意義
57	①	薬事, 56, 1369-1375, 2014	退院時薬剤指導のポイントー薬局と連携した大阪府中河内方式の退院時共同服薬指導
58	②	薬学雑誌, 144, 691-695, 2024	Speed and Accuracy of Recording Medication History by Pharmacists in Secondary Emergency Rooms
59	②	日本臨床救急医学会雑誌, 24, 354-358, 2021	救急患者転院時における診療情報提供書の薬歴内容に関する調査
60	②	日本病院薬剤師会雑誌, 56, 327-332, 2020	Emergency Room(ER)にて一時入院待機となった二次救急患者に対する薬剤師の早期介入
61	②	日本臨床救急医学会雑誌, 22, 493-498, 2019	ER 専従薬剤師による持参薬鑑別の有用性
62	②	医薬品情報学, 20, 1-11, 2018	お薬手帳の利用に関する文献レビュー
63	②	医薬品情報学, 17, 39-44, 2015	救急入院患者と予約入院患者の持参薬調査に関する比較検討
64	②	日本臨床救急医学会雑誌, 26, 528-531, 2023	薬学的介入によって早期診断および重症化回避につながったアテゾリズマブによる1型糖尿病性ケトアシドーシスの1例
65	②	中毒研究, 33, 56-59, 2020	ER 専従薬剤師のアプローチによってジスチグミン臭化物によるコリン作動性クリーゼの早期診断に至った1例
66	②	日本臨床救急医学会雑誌, 20, 563-571, 2017	會津お薬手帳を用いた薬物医療情報の共有化
67	②	医療薬学, 37, 41-47, 2011	緊急入院患者における入院時薬歴管理の重要性と課題 予定入院と比較して
68	②	アプライド・セラピュー	地域連携システム「金鯱メディネット」に

		ティクス, 17, 25-34, 2022	おけるカルテ情報を利用したかかりつけ薬局の質向上に向けた探索的研究
69	②	医学と薬学, 81, 221-225, 2024	【進化する緩和医療と地域連携】在宅緩和ケアにおける退院前カンファレンスへの関わり 在宅移行時における病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の必要性
70	②	薬局, 74, 2242-2249, 2023	薬剤師力の型 新たな思考と行動プランを手に入れろ! ケア移行時は Medication reconciliation で評価せよ!
71	②	薬事, 65, 1145-1150, 2023	【免疫チェックポイント阻害薬の使い方 & irAE 対策】 irAE フォローアップ 退院時指導, 保険薬局との情報交換・連携(解説)
72	②	日本職業・災害医学会会誌, 70, 39-48, 2022	保険薬局薬剤師と病院薬剤師との薬薬連携推進に向けた疑義照会および患者情報共有に関する現状調査と課題の検討
73	②③	薬事, 65, 2604-2608, 2023	【入退院支援を再点検!退院後を見据えた薬学管理】退院後を見据えた入院中の薬剤管理 ICU から
74	③	日本手術医学会誌, 45, 101-104, 2024	ここがポイント!術前中止薬再開のタイミング-薬剤師との協働- 術後中止薬再開に対して,薬剤師はどのように関わるか?
75	③	日本手術医学会誌, 44, 326-330, 2023	「今,多職種で術後疼痛管理を考える」多職種連携で行う術後疼痛管理 大きな変化を遂げた周術期医療における薬剤師の役割
76	③	広島県病院薬剤師会誌, 58, 134-141, 2023	広島大学病院の周術期薬剤師と他職種連携
77	③	広島県病院薬剤師会誌, 58, 125-133, 2023	マツダ病院における周術期の薬学的管理業務
78	③	広島県病院薬剤師会誌, 58, 75-81, 2023	周術期薬剤管理加算の取得とその後 小規模病院薬剤科の挑戦
79	③	広島県病院薬剤師会誌, 58, 65-74, 2023	周術期薬剤管理加算 算定にむけての当院の取り組み
80	③	ペインクリニック, 44, 266-272, 2023	【広がれ!術後疼痛管理チーム】広島大学病院の術後疼痛管理における薬剤師の役割

81	③	日本手術医学会誌, 43, 35-40, 2022	【手術医療のタスクシフトを担う周術期チームのダイバーシティ】周術期管理チーム認定薬剤師の役割と周術期医療において薬剤師に求められるニーズ
82	③	日本手術医学会誌, 41, 70-75, 2020	【周術期管理における各職種の役割】安全な周術期医療の提供のために薬剤師が担うべき役割とは 薬剤師介入効果と今後の課題
83	③	麻酔, 67, 1344-1346, 2018	薬剤師の手術室常駐による経済的効果と麻酔科医の業務負担軽減について
84	③	日本臨床麻酔学会誌, 38, 798-902, 2018	周術期管理チームを既に導入した施設からの提案 次の一手は? 周術期医療における薬剤師のあるべき姿とは
85	③	臨床麻酔, 42, 1226-1235, 2018	【周術期管理チームの実践】周術期管理チームにおける薬剤師の術前術後の活動
86	③	外科と代謝・栄養, 52, 109-116, 2018	チーム医療による実践的手術侵襲軽減策とアウトカム薬剤師による取り組みー術後疼痛管理チームによる術後疼痛軽減策ー
87	③	日本臨床救急医学会雑誌, 19, 499-508	地方病院の救命救急センター・集中治療部門における薬剤師業務の現状
88	③	日本病院薬剤師会雑誌, 52, 1043-1049, 2016	周術期患者の薬学的管理と手術室における薬剤師業務の現状と課題 平成26年度日本病院薬剤師会学術第8小委員会アンケート調査より
89	③	日本臨床麻酔学会誌, 36, 187-193, 2016	周術期管理チームの理想と現実 Best of the Teamを目指して 周術期管理における薬剤師の現状とこれから 真のチームを目指して
90	③	薬事, 57, 35-41, 2015	【周術期患者への薬学的介入-シームレスな関わりを目指す!】薬学的管理のポイント 術中
91	③	日本臨床麻酔学会誌, 34, 523-530, 2014	周術期のチーム医療 周術期管理チームと薬剤師
92	③	麻酔, 61, 267-275, 2012	【麻酔科とチーム医療】手術室での薬剤師との連携 周術期の薬学的管理

93	③	日本手術医学会誌, 32, 336-339, 2011	手術室運営の効率化に貢献する薬剤師のチーム医療
94	③	薬事, 52, 1857-1860, 2010	周術期における医療の質向上
95	③	薬学雑誌, 135, 163-167, 2015	周術期医療に関する薬学教育の必要性 術式と麻酔法を考慮した手術室専任薬剤師の活動から
96	③	日本病院薬剤師会雑誌, 54, 423-427, 2018	ICU から一般病棟転棟後にランソプラゾールによる collagenous colitis の発症が疑われた 1 例
97	③	日本病院薬剤師会雑誌, 54, 33-40, 2018	ICU を退室した患者に対する ICU 担当薬剤師の適切な薬物治療への貢献
98	③	薬局, 74, 2242-2249, 2023	薬剤師力の型 新たな思考と行動プランを手に入れろ!(貳拾肆ノ型) ケア移行時は Medication reconciliation で評価せよ!
99	③	ICU と CCU, 46, 327-336. 2022	【薬剤師の集中治療、救急への参画】 ICU 入室患者における Medication Reconciliation(投薬調整)
100	③	薬事, 62, 41-46, 2020	【急性期医療のケア移行 シームレスな薬物治療を提供しよう!】 循環管理
101	③	薬事, 62, 53-59, 2020	【急性期医療のケア移行 シームレスな薬物治療を提供しよう!】 代謝・内分泌
102	④	日本病院薬剤師会雑誌, 59, 593-599, 2023	過疎高齢化地域の地域包括ケア病棟における薬剤師介入の必要性に関する解析～急性期病棟との比較～
103	④	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 1177-1183, 2022	転院時の薬剤師間連携の有用性に関するアンケート調査 ～転院時フォローアップ依頼書を用いた薬剤情報連携～
104	④	日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 25, 288, 2022	地域で取り組むがん薬物療法支援～連携充実加算と特定薬剤管理指導加算 2 の算定促進に向けて～ 高度急性期病院における地域医療連携と薬剤師の役割 薬剤師連携の現状と課題
105	④	日本医療薬学会年会講演要旨集, suppl. 1, 460-460, 2022	脳卒中患者の薬物治療を支える・つなぐ～急性期病院薬剤師の関わり～

106	④	日本医療薬学会年会講演要旨集, suppl. 1, 1492, 2021	急性期病院における転院難渋症例への地域医療連携センター薬剤師の関わり - 新型コロナウイルス感染症患者の転院支援における課題 -
107	④	医療薬学, 45, 97-105, 2019	急性期病院における退院時薬剤情報提供書の運用と薬局アンケートによる評価
108	④	日本医療薬学会年会講演要旨集, suppl. 1, 393, 2018	Medication Reconciliationによる院内薬薬連携の実際と九州での薬剤師のアクティビティ
109	④	薬学雑誌, 138, 787-789, 2018	心不全診療における薬薬連携の重要性 - 病院薬剤師の立場から -
110	④	日本医療薬学会年会講演要旨集, suppl. 1, 479, 2012	熊本県脳卒中連携パス・薬剤師部会の取り組み～急性期病院の現状と新たな展開～
111	④	日本集中治療医学会第2回中国・四国支部学術集会講演要旨集, 1, 75, 2017	救急病棟入院患者に対する転院時薬剤情報提供書作成の取り組み
112	⑤	日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 33, 24-28, 2023	外来がん治療における地域医療連携等に関する実態調査
113	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 56, 1028-1034, 2020	病院薬剤師による服薬情報報告書(トレーシングレポート)の内容分析と保険薬局への意識調査
114	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 56, 205-212, 2020	がん領域の仮想処方せんを用いた実践的参加型グループディスカッション形式勉強会の運用とその評価
115	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 52, 1493-1498, 2016	がんの治療手帳の作成とセミナーの開催による多職種連携への取り組み
116	⑤	医療薬学, 42, 746-756, 2016	がん化学療法における病薬連携を目指した地域薬局の取り組み 皮膚障害を副作用に持つ薬への対策
117	⑤	医薬品相互作用研究, 38, 90-98, 2014	がん化学療法における薬薬連携 化学療法情報フィードバックシステムの構築と評価
118	⑤	薬学雑誌, 134, 563-574, 2014	がん化学療法における薬薬連携への取り組みに関する問題点と対応策 ワークショッ

			プ開催による KJ 法に基づく問題点の抽出と対応策の立案
119	⑤	医療, 72, 519-523, 2018	がん化学療法患者に対するお薬手帳を活用した薬・薬連携推進に向けた取り組み
120	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 52, 523-537, 2016	経口抗がん剤単剤に対する病院薬局と保険薬局間の双方向情報共有による共同指導の効果について
121	⑤	医療薬学, 42, 476-482, 2016	保険薬局による電話連絡とトレーシングレポートを利用した経口抗がん剤服用外来患者に対する情報提供方法の確立
122	⑤	医療薬学, 41, 275-282, 2015	がん患者・保険薬局薬剤師のアンケート調査結果に基づいて作成した病薬連携連絡票
123	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 50, 269-273, 2014	がん地域連携パスにおける薬剤情報提供書を用いた薬・薬連携のアンケートによる評価
124	⑤	医療薬学, 41, 471-479, 2015	がん化学療法レジメンラベルとレジメンワークシートを用いた保険薬局への情報提供とその利用状況に関する実態調査
125	⑤	九州薬学会会報, 69, 47-51, 2015	外来化学療法における地域連携強化のための調査報告 福岡県下薬局アンケート
126	⑤	薬学雑誌, 144, 143-150, 2024	薬局薬剤師によるがん薬物療法に関する服薬情報等提供書の送付に係わる要因
127	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 59, 1237-1243, 2023	外来化学療法におけるトレーシングレポートの有用性と医療経済効果の検討
128	⑤	日本臨床腫瘍薬学会雑誌, 33, 17-23, 2023	2022 年度がん診療連携拠点病院等におけるがん領域の病院薬剤師業務と地域連携に関する実態調査
129	⑤	調剤と情報, 29, 2173-2177, 2023	外来がん治療患者フォローアップにおける良質な薬薬連携の寄与
130	⑤	国立沖縄病院医学雑誌, 42, 37-44, 2022	外来化学療法における病院薬剤師と保険薬局薬剤師の情報連携の過程の評価と課題抽出および副作用による入院件数に関する後方視的調査

131	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 59, 169-177, 2023	地域共通版トレーシングレポート導入の取 り組み
132	⑤	社会医療研究, 19, 25- 27, 2021	服薬情報提供書の活用状況と症例報告
133	⑤	調剤と情報, 29, 113- 117, 2023	保険薬局薬剤師によるトレーシングレポー トを活用した薬学的介入と残薬解消への介 入から得られる医療経済効果
134	⑤	北海道病院薬剤師会誌, 103, 19-22, 2022	トレーシングレポートの内容分析と薬学的 フォローアップのための標準的評価項目作 成
135	⑤	医薬品相互作用研究, 46, 64-69, 2022	がん化学療法の薬薬連携における医療 ICT 「キビタン健康ネット」の有効性の検討
136	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 1204-1211, 2022	外来がん化学療法連携充実加算に係るトレ ーシングレポートを用いた病薬連携の有用 性の検討
137	⑤	日本緩和医療薬学雑誌, 15, 91-99, 2022	オピオイド鎮痛薬を導入した外来がん患者 に対する病院薬剤師の指導状況の全国調査
138	⑤	日本緩和医療薬学雑誌, 15, 81-90, 2022	保険薬局薬剤師によるがん患者に対する医 療用麻薬の指導実態の全国調査
139	⑤	新医療, 49, 70-73, 2022	【真に有用な地域医療連携システム強化の 要諦】情報共有の促進で期待される医療の 質向上の実際 病院薬局間連携ネットワー クシステム運用における地域薬局への情報 提供
140	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 788-794, 2022	京都第二赤十字病院における京都府病院薬 剤師会作成の抗がん薬フォローアップシー トを利用した情報共有方法とそのアウトカ ム
141	⑤	日本薬剤師会雑誌, 74, 259-264, 2022	薬局と病院との連携により経口抗がん薬薬 物治療の副作用管理を実践した取組
142	⑤	日本病院薬剤師会雑誌, 58, 281-288, 2022	電子媒体を用いたトレーシングレポート共 有化システムに関する実態調査
143	⑤	癌と化学療法, 49, 167- 171, 2022	外来がん化学療法において薬薬連携に用い るツールの有用性の評価

144	⑤	医療薬学, 47, 649-658, 2021	外来がん化学療法における有害事象の共通用語基準に基づいたトレーシングレポートの有用性
145	⑤	都薬雑誌, 46(4), 52-56, 2024	がん薬物療法における薬薬連携 第1回 東京都がん薬物療法協議会の設置について
146	⑤	都薬雑誌, 46(5), 40-45, 2024	がん薬物療法における薬薬連携 第2回 令和4年 第2回 三団体合同薬薬連携推進研修会における企画参加報告
147	⑤	北海道薬剤師会雑誌, 40, 4-10, 2023	医療薬学ブラッシュアップ講座 地域における病院薬剤師と保険薬剤師の連携
148	⑤	医学のあゆみ, 280, 842-846, 2022	心不全チーム医療の理論と実践 心不全チーム医療と薬剤師—患者指導・医薬品適正使用の推進・緩和ケア・薬薬連携
149	⑤	日本薬剤師会学術大会講演要旨集, 55, 202, 2022	第55回 日薬学術大会発表より 河内長野市薬剤師会でのトレーシングレポートの運用状況と課題
150	⑤	都薬雑誌, 44(4), 48-52, 2022	服薬情報提供書の運用と書き方のヒント 第1回 トレーシングレポートの現状と課題
151	⑤	都薬雑誌, 44(5), 49-53, 2022	服薬情報提供書の運用と書き方のヒント 第2回 薬局としての制度の捉え方と運用方法～第3 3回多摩薬薬連携協議会フォーラムから～
152	⑤	日本薬剤師会雑誌, 74, 1019-1024, 2022	保険薬局薬剤師のトレーシングレポート活用に関する意識調査～地域一体となったトレーシングレポートの活用推進に向けて～
153	⑤	日本薬剤師会雑誌, 71, 177-183, 2019	地域におけるトレーシングレポート（服薬情報提供書）への取り組みに関する研究
154	⑤	日本薬剤師会雑誌, 73, 837-841, 2021	病院薬剤師のトレーシングレポート活用に関する意識調査～トレーシングレポート活用推進に向けて～
155	⑤	https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/26885	薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法の検討とアウトカムの評価研究
156	⑤	薬局薬学, 10, 165-173, 2018	病院との連携を目的とした白内障手術クリニックへの薬局薬剤師の関与

157	⑤	https://numayaku.jp/about/katudou/yakuyaku.html	白内障手術の術前・術後の処方と情報提供書について
158	⑤	https://municipal-hospital.ichinomiya.aichi.jp/data/media/ichinomiya-hp/page/medical/yakuyaku/pdf06.pdf	一宮市立市民病院眼科日帰り手術院外処方運用について（保険薬局用）

フェーズ番号と対応するフェーズ

- ① 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（予定入院・退院）
- ② 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（緊急入院）
- ③ 急性期病院内（転棟・ICU/手術部への出棟・帰棟）
- ④ 急性期病院⇔他の急性期病院、回復期・慢性期病院（転院・入院）
- ⑤ 自宅・居住施設・介護施設⇔急性期病院（外来手術・受診・帰宅）